

潮騒通信

潮騒ジョブトレーニングセンター

Drugs and Alcohol Addiction Rehabilitation Center

一部 100円

どっこい生きてます!



11月27日(日)に鹿嶋勤労文化会館で開く「潮騒ジョブトレーニングセンター11周年フォーラム」が迫り、これを所管する潮騒プロジェクト会議でも熱心に話し合いが続いています。ひと口にフォーラムといっても、施設の色合いやリーダーの個性などでバラエティーに富んでいます。潮騒ではまず当事者が楽しむことを第一義としながら、その都度相応しいテーマを設定しています。苦勞して毎年開催する必要はないのではないか?との声もありますが、みんな心を一つにして力を結集するのは大きな意義があります。多くの皆さんの参加をお待ちしております。

2016

10

回復への熱い思いが 未知の分野への挑戦に



秋も深まり、潮騒JTCでは施設を挙げて取り組む公開フォーラムまで1カ月を切り、スタッフを中心に多忙な日々です。最近、依存症の治療リハビリ施設の潮騒でも依存症単一の病状を持つメンバーは少数派となり、複合的な依存症(重複障害)が当たり前となりました。このため薬物やアルコール依存症に起因する精神疾患を併発する仲間を数多く受け入れてきましたが、ここきて依存症とは直接関係のない重篤な精神疾患の人達が、新たな仲間として登場しています。潮騒にとっては未経験のケースだけに、私なりに悩んだ末の決断でした。彼らは病態としては精神疾患に括られるとしても、反施設の傾向があだになり精神科病院や福祉施設での規則や入院・入寮生活にうまく順応できず、結果的に締め出されてきた人達です。このように潮騒JTCは全国のダルクに先駆けて、社会の中に居場所がなく既存の医療や福祉システムの枠では救えない困難な人達の“駆け込み寺”の様相を帯びてきました。

きっかけは身内が精神科病院内での規則や入院生活になじめずに、行き場を失って途方に暮れていた家族から、行政を通して「なんとか潮騒で面倒を見てほしい」と懇願された事にあります。私はスーパーマンではありませんから、自分の力量の及ぶ範囲や能力の限界は分かっているつもりです。今も専門の治療プログラムがない潮騒が、彼らに対してどこまで適切な対応できるか不安は拭えません。それだけでなく多忙なスタッフに重い負担を強いて、彼らの回復そのものが危くなるのではないかと、との危惧もあります。今のところは施設内に目立ったトラブルはありませんが、もし私が計算高い責任者なら真っ先に施設に与えるダメージやリスクを考えて、精神疾患を持つ人達よりも回復が見込まれる人達を積極的に受け入れる施設運営をするでしょう。吹けば飛ぶような潮騒JTCだけに、あの相模原障害者施設のような大事件が起きたらひとたまりもありません。施設はすぐに閉鎖となり、入寮者は行き場を失ってしまいます。

でも、考えてみてください。ダルクや潮騒の歴史は日々細かなトラブルの連続です。毎日が体当たりの、綱渡りの施設運営にほかなりません。「回復は神(=ハイパーパワー)のみぞ知る」「先は分からないが今日だけは…」の精神で、依存症の回復を積み上げてきた歴史です。これが可能だったのは「病気は専門家が治すもの」という世間の常識に囚われずに、当事者活動に秘められた不思議なパワーに支えられてきたからです。自分達のやり方を信じ、日々の実践を貫徹してきたからだ、と私は考えています。この鍛えられたノウハウが、新たに登場した仲間達にどれほど有効なのかは全く分かりません。言えることは「ヤク中アル中に回復はない」とされてきた私達でも、何とか回復の道を歩めているという“事実”です。制度の狭間に放置され、医療や福祉の光から見放されてきた存在でも、当事者のやり方次第では社会のお荷物から転じて少しは社会に役立てるのではないかと— この回復への熱い思いがある限り、私は未知の分野に挑戦し続けます。

(センター長 栗原 豊)

イチさんの棚卸

第1回

「日記風の回想録」

バンド経験を生かし 自分の立ち位置を つくり上げた



皆さん、こんにちは。依存症のイチです。これから僕が連載の形で書く文章は、潮騒ジョブトレーニングセンターに入寮してから現在までの、自分の身近で起こった事柄について、自分自身の棚卸表に使用するための日々の日記です。中には言葉の表現が汚い場合があるかもしれませんが、あるいは僕の思いや意味が読者の皆さんにうまく通らなかつたり、もしかして語弊を生むこともあるかと思えます。僕は言葉を自由自在に駆使する“プロ”ではないので、その点はどうかお許し頂きたいです。

僕がこの潮騒ジョブトレーニングセンターに来てから、もう随分と時間がたちました。今まで潮騒において自分が携わって来た活動はあれこれ多岐にわたりますが、その大きなものとしては潮騒独自の音楽プログラムへの参加を挙げることができます。入寮して施設の生活に慣れると僕は、まずはバンド活動に参加しました。最初はドラムを、次いでベースギターを務めさせて頂きました。実を言うと僕は中学1年の頃から、父親が少年時代に流行っていたベンチャーズのコピーバンドをやっていたことがあり、この時にはベースギターを担当していました。

そうした音楽経験が下地にあったこともあって、潮騒



でのバンド活動の「言い出しっぺ」は僕でした。ギターをやっていた仲間のタケシにギターを教え、今はエイサー(琉球太鼓)の道化役で存在感を見せているヒトシやパフォーマンスが見事な呂布にはドラムを教えたりしました。このように過去のバンド経験を生かすことで、僕は潮騒において僕なりの立ち位置をつくり上げていました。

そのうちにバンド活動では年一回、毎年11月初めに鹿嶋市まちづくり市民センターで開かれる「て〜ら祭」で他団体とともにステージ発表に立つようになりました。僕達コピーバンドはサザンオールスターズの「祭りの後」、長渕剛の「とんぼ」、「乾杯」等を演奏させて頂いたりしました。そのうちにスリップや途中退寮などで仲間が集まりづらくなり、いつの間にか活動休止となりましたが、今では懐かしい思い出です。

そうしたバンド活動を経て現在、僕はエイサー、そして和太鼓の活動をしています。これら余暇活動とは別に、今はここデイケア(潮騒アディクションビレッジ会館内)の4Fにて潮騒広報部の活動を担当しています。何かと忙しい毎日ですが、自分の棚卸となるので「書く」作業を通じて自分を見つめていこうと思います。



収穫期を迎えた今年の潮騒農業

ハード環境が整う一方で新たな課題も浮き彫りに



主力の猿田農場の整備で 作業効率が大幅アップ

潮騒農業における米作りは例年並みに順調に進み、今年は自分達で稲苗を作ることにも成功しました。暗渠排水の整備作業も大変でしたが、潮騒の真骨頂であるマンパワーでやり通し、深い水田も水が切れて良い具合になりました。乾燥機小屋を整備したのですが、乾燥機の電源である高圧電源の工事の遅れで稲刈り時期を過ぎてしまった事が悔やまれます。それでも支援者の高田農園さんの協力により、米作りの全作業を無事に終える事ができました。

本格的に猿田農場を主力農場にするため、ビニールハウスを建てました。1棟は青パパイア用に試験的に使っています。台風被害もなかったので実り具合もよく、収穫後は“おらげのかまど”のメニューの食材に提供しています。課題の冬を乗り切れるかについても、暖房(ヒーター)等を導入して試す計画です。約1カ月掛けてサツマイモ用の貯蔵庫も整備しました。土中約2mまで掘り、周りを丸太で囲み、鉄骨で補強しました。天井となるビニールハウスも建て、骨組みまで完成したので、後は特注のシートが届

くのを待つだけです。

その他、今年も多品種の野菜づくりに力を入れました。季節の野菜を路地栽培で育て、ジャガイモは年間通して出荷できるように冷蔵庫に保管しています。“かまど”の食材と、直売所のニーズなどにも応えています。このほか猿田農場には念願だった井戸水や電気が通り、作業効率が大幅にアップしました。ユンボ(パワーショベル)も導入して、手作業では困難な一連の作業や地元からの軽作業の依頼にも、楽に応えられるようになりました。



精神疾患のメンバーが増えて いじめの構造が

最近の入寮者は重複障害にとどまらず、従来のダルクの枠に嵌らない精神疾患のメンバーが増えており、潮騒農業が彼らに相応しい居場所として機能するように試行錯誤が続いています。ただ、作業療法としての有効性から農業に期待を寄せるのはいいとして、彼らの中には実際の場面では仲間内での問題意識の共有が難しい場面や、これまでならメンバー内でほぼ異議無く了解されていた事項を受け止めにくいメンバーが多くなり、回復を目指す

同じ仲間としてコミュニティを形成しながらも、結果的にいじめのような構造が生まれています。こうした問題を解消するために今回、彼ら向けの新しいナイトケアハウスへの移動が始まり、従来と区別した新たなプログラムを組んだり、いじめ被害を受け易いメンバーの保護に力を入れています。

また、はっきりした根拠が示せないままに約13カ月(1年1カ月)クリーンでいれば退寮できると思い込むメンバーも増えてきています。彼らは依存症の回復よりも社会復帰への思いやリアリティーが優先して、これが回復への焦りや社会復帰にはやる気持ちとなって、自主退寮したもののスリップ(リラプス)してしまうケースが目立っています。躓いたメンバーらは夜中に酔っぱらってスタッフらに電話してきます。結局のところ中途半端な回復願望により、依存症の根本にある孤独感をうまく自分の中で感情処理できずにいるようです。



自然と向き合うとしても 潮騒農業は万能ではない

以上の点を踏まえ反省点として見えてきたのは、入寮者がいきなり潮騒農業に参画するのは無謀であり、最低限デイケアでのプログラムを1~2カ月体験して、ある程度は自分の問題と向き合える謙虚な態度を持てるぐらいの段階を経て、潮騒農業に取り組んでほしいということです。それが出来ていないと、やたらと近所を出歩いて地域の誤解と偏見を生み、たやすくスリップしてしまう要因になるように思います。もとより潮騒農業は万能ではありません。重複障害や精神疾患の回復には、自然と向き合う農業は手っ取り早い回復効果があるとの思い込みは危険です。そうした安易な理由での参加は、それだけでなくも対応に窮しているスタッフメンバーを疲弊させ、更なる苦勞を強いることになりかねません。

このようにハード環境の整備と共に、潮騒農業に参加を希望する新たな仲間も増えて様々な問題も生まれています。でも先送りせずに、その都度グループミーティングなどを通してみんなで話し合い、問題解決に努力しています。いろいろと目に見えない苦勞が多く、潮騒農業を円滑に進めるのは大変ですが、転ばぬ先の杖となるステップを実践し、できるだけメンバーが孤立しないよう問題を共有化して、近視眼的にならずに大きな器の中でゆったりした構えで対応しています。日々トラブルや問題が起こることは避けられないとしても、根本にある人間性の回復と霊的な成長こそが潮騒農業を支えてくれることを信じて取り組んでいます。(農業隊リーダー、ヒトシ)

8年ぶりに両親と再会し 自分を冷静に捉え直す機会に



10月に入り、潮騒JTC11周年フォーラムに向けた準備も本格化しています。毎年の事とはいえ潮騒ではメンバーチェンジが激しく、新しい顔ぶれも交じって毎月開かれるプロジェクト会議では、作業工程の確認などが熱心に話し合われています。そんなフォーラム準備作業の中心にいるのがアルコール依存症のトムさんです。今回スタッフのトムさんが現在の心境をつづってくれましたー。



今日は10月18日、火曜日です。先ほどまでこのニュースレター関係の仕事をして、この文章を書いています。来月はフォーラムが行われます。潮騒はこの時期、鹿嶋市の秋季イベント「鹿嶋まつり」や潮騒が活動拠点としている市まちづくり市民センターでの「て〜ら祭」などのイベントに参加しながら、毎年フォーラムを迎えます。スタッフは各々会議を重ねながら、準備に余念がありません。

ところで昨日、自分は8年ぶりに都内で両親と再会しました。久しぶりに会った両親は背中が丸くなり、施設につながった頃とはだいぶ違っていました。この間に妹たちは結婚し、自分にもいつしか甥っ子ができていました。加えて、あれだけ丈夫だった父も心臓を患いペースメーカーを入れていました。食事をしながら父は、一緒に生活していたときの出来事を話していました。すべてが事実なのでとても耳が痛かったですが、今更ながらアルコール依存症という病で自分がどれだけの負担を両親に強いていたのかを理解しました。

結局は、それによって身上を潰させてしまったこと、その脇で涙を流している母を見て、改めて親としての愛情を感じずにはおられませんでした。そして今、自分が生かされていることへの感謝も生まれていました。食事が終わり、席を立つ際には自分から「すみませんでした」と一言だけ伝えることができました。

両親とはエレベーターの前で別れましたが、鹿嶋に戻って来て改めて自分の周りを眺めると、きちんと風景が見えている感じがします。この感じを忘れないようにしたい。今そう強く感じます。

来月の11周年フォーラムのテーマは「広がれ、潮騒の輪!」です。楽しんでいただけるよう皆、懸命です。どうぞ11月27日、足をお運びください。お待ちしております。(とむ)

第10回「ハイパーパワーに身を委ねる生き方ができている」

ユタカ vs トム 対談



—— 前回途中になったんですが、逆風の中で潮騒 JTC の施設運営がうまくいったのは、支え手となる人的な繋がりが外的な要因に恵まれたと同時に、トムさんから当事者の力量も見逃せないとの指摘を頂きました。小規模な民間施設といえども施設を主導するリーダーの手腕というか、資質や能力に負うところが大きい。栗原センター長の場合、他には見られない卓越したマネジメント力は無視できない、との貴重な提言でした。それが従来のダルクの流れや枠から踏み出して、潮騒を就労支援に特化した方向へと導いたのではないかとその意見でしたが、トムさん、そこをもう少し掘り下げてもらえますか。(司会進行・広報部)

「贈与文化」が根付いていない 問題も大きい

トム 一般企業でもそうでしょうが、組織がうまく回るには各々の任務分担というか、それぞれ置かれた場所で任された仕事が責任を持って円滑に遂行できることが前提条件となります。まあ、私たちヤク中アル中に、それを求めるのは酷ですが、そうした当事者側の環境が整っているのが望ましい訳です。恐らくユタカさんの場合には独立の経緯が尾を引いて、お金も場所も支援者も、一番大事なプログラムさえない中でスタートした訳ですから、すべて自前でやらなければならなかった。何もお膳立てがないから頼れるのは自分達だけ、そのためいかに創意工夫してやり繰りするか、一貫して自力更生の精神が求められたのだと思います。

翻って日本でダルクの運営が難しいのは、依存症に対する社会の偏見や理解遅れに加え、欧米のようにキリスト教を下地にした「贈与文化」が根付いていない問題もあるように僕は考えます。いや、全くない訳ではなくて、歴史的に仏教的な施しや共同体を維持する相互扶助の精神はあ

りますが、これらも戦後社会の利害優先の価値観の中では薄れてしまった。じゃあ、それを補完する福祉や社会保障制度が充実しているかといえば、ご覧の通りです。そうした“分かち合いの文化”が貧しい環境の中で、なおさら潮騒は篤志家からの「贈与」が期待できず、まったくゼロのスタートだったんですね。

—— 鋭い分析ですが、そうした困難な壁を栗原センター長は持ち前の“怖い者知らず”のパワーが風穴を開けた、ということですか？

トム そうだと思います。そういう逆境がユタカさんのマネジメント力を鍛え上げた、と僕は見ています。でも、その一方でダルクがそうであるように、潮騒も本来的な意味からは組織ではありません。潮騒はNPO法人の衣を着ていますが、あくまで本質は緩やかな繋がりやの団体、社会との中間施設にすぎません。なので、すべてにカネが優先する訳ではないし、カネがすべてという発想なら、とつくにダルクも潮騒も潰れています。なにしろ、この仕事は旧来的な意味でいえば、あくまで福祉分野における社会貢献活動というか、基本はチャリティー活動なんですから。それ以上でも以下でもない。この事業がうまくいくかどうか、その発展の鍵はある意味リーダーのプロデュース力にかかっていると、僕は見ています。ユタカさんにはそれが備わっているんです。

—— そうなんですか。僕らスタッフから見ると、栗原センター長はひらめきというか、思いつきの施設運営みたいに感じられる場面が多いんですが…。

ユタカ まあ、この国は資本主義の社会ですから、いくら綺麗ごとを言ったところでお金と実力がないと何も始まらない。今や水だってタダじゃない、カネがかかる時代だよ。ね。ダルクだって、誰かが泥を被る事をいとわないと成り立たない。損な役回りだけど、それを引き受けるのが施設の責任者だと私は考えています。そういう意味で、やはり

先立つものはカネです。福祉といえどもカネが絡むことは避けられません。国のカネが当てにならない依存症の回復施設にとって、いかに自前で「食える」環境を整えるかがリーダーの手腕として問われます。私は一貫してその問題に向き合ってきました。

100%ハイパーパワーに身を委ねる 生き方ができている人

トム そうですね。そこは外せません。また、そこには少し説明を加える必要があります。ダルクに近藤恒夫さんがいるように、組織や団体、施設といえどもその隆盛は結局のところ人に帰する、と僕も考えます。日本でダルクが30年以上の歴史を生き延びているのは、やはり近藤さんという稀有なリーダーの存在が無視できません。ところで僕が身近で近藤さんを見ていて思うのは、宗教家を超えるほどの人間理解の徹底性というか、俗世間を凌駕する懐の広さで人に接する態度ですね。僕らと同じように近藤さんだって「今を生きている」のは間違いないのだけれど、その存在はどこか宇宙的というか、とらえどころがないんです。100%ハイパーパワーに身を委ねる生き方ができている人なんですね。

女性のように優しく、人一倍人情にあつくて、とても涙もろい寂しがり屋なんだけど、それでいて子供のような無邪気さを失わない存在です。この人には人間を憎んだり、人を妬んだり、という悪感情がないのかな、と思わせるほどです。無類のお人好し、ですかね。何があっても、とりあえず自分を向こう側に預けることができる。そうした達観で物事を見るから、許しや寛容というビジョンが、手垢に汚れた僕らのそれとは比べ物にならないんだと思うんですよ。近藤さんには及ばないとしても、ユタカさんにもそういうところがありますよね。

——確かに、近藤さんは「俺が俺が…」と仕切るタイプではなくて、どこか飄々としていてリーダーとしては異色ですね。その辺によくいるおじさんタイプ。お人好しの好々爺のイメージですね。

トム 傍らでよく聞いていると、近藤さんの話はほとんどが「例え話」のような、なぞなぞの世界です。今ここで、というよりは、いろいろ問題はあるにせよ、とりあえず一度向こう側の世界に、すべてを預ける発想で問題解決を図るようなところがあります。身近にいる人達からすれば、それって何にも解決になっていないじゃないか、という不満がありますよ。でも、それでいいんですね。リーダーの発想としては。僕らだったら物事を目先の利益や利害で考えがちで、どうしても感情的に対処してしまうでしょう。これしか道

はない、って近視眼的な処理の仕方にこだわってしまう。

近藤さんの口から出る言葉は アレゴリーに満ちている

トム よくよく構えを崩して考えれば、僕らが生きている現実社会はいろんな困難があります。それだけに解決に導く道は一本じゃない。針の穴を通すように難しく見えても、本当はいろいろな道があるかもしれない。でも余裕がないから窮地に追い込まれた立場だと、それが見えない。逆に狭い判断しかできない。

それに対して近藤さんは、いったんは向こう側に、まあハイパーパワーに預けるという発想ができる人なんですよ。だから近藤さんの口から出てくる言葉はどこか寓意(アレゴリー)に満ちている。先月号の巻頭言でユタカさんが聖書の話に興味深く記していましたが、まさしく聖書にはたくさん「例え話」がちりばめられています。預言が成就するという形でね。ユタカさんは「預言者は故郷では相容れられないんだ」という面白いエピソードを紹介していましたが、僕は大いに示唆を受けました。あれなんですよ、ダルクのリーダーはいい加減でもいいんだけど、どこかお人好しで「しょうがないなあ。何考えてんだか、この人は。でも、俺が支えてやらないとなあ」と思わせる部分なんです。

——それこそ優れた実践的なリーダー論ですね。

トム 近藤さんと同じで、ユタカさんも仲間をとことん肯定するんですね。壁にぶつかって失敗しても、「今回は駄目だったけど、それが病気なんだから仕方ないさ。誰だって先は分からない。まだまだ回復の見込みあるんだから、希望は捨てるなよ」と。そして「また俺と一緒にやり直そう」「他のダルクがシバッテンつけても、俺は見捨てないよ」っていう関わりだから、みんなの信頼を得ている、と僕は考えています。リーダーはビジョンを示すのはもちろんですが、全体に目配りして人間的な関わりも忘れてはならない。それができるのは総合的なプロデューサーなんですね。

もちろんダルクも潮騒も、社会にある一般企業と違って個性の強い、ある意味猛者連中を相手にする訳だから、表面的な人を使うテクニックだけではすぐに見透かされてしまう。やはり最後は回復者としての霊的な部分です。魂の深い部分での共感があるから、みんなが付いていくんじゃないですか。

——そう言われると納得できます。みんなぶつくさ文句を言いながらも「センター長がそう言うならしょうがねえなあ…」っていう感じです。すいません、紙面の都合で今回もここまでになります。続きは次号で。

(この項続く)



潮騒女性ハウス「るみの家」では10月17日と18日に、2グループに分かれて銚子市のスパリゾート施設「太陽の里」と、浦安市の東京ディズニーランドに行きました。以下は参加した女性メンバーの感想です。



垢すりとマッサージで ピカピカ・ツルツルに

今回のプログラムでは、太陽の里とディズニーランドのどちらを選んでもいいのですが、私は迷わず太陽の里を希望しました。もちろん垢すりとマッサージが決め手です。プールでも泳げるというので水着も買ったし、温泉にもゆったり浸かった。とにかく垢すりが気持ちよくて、毎日風呂に入って洗っているにもかかわらず、次々にボロボロと垢が出てくる。その前にプールに入ったのですが、本格的に泳いだのは20年ぶりなので上手く泳げませんでした。かつては潜水もできていたのが施設に来て太ってしまい、うまく沈む事ができずにどうしても体が浮いてしまうのです。デブは水に浮くものなんだと実感しました(笑)。一緒にプールに入った仲間はクロールでスイスイ、私も20年前は平泳ぎだけど25mプールを四往復ぐらいできたのに…。ゆっくり温泉に浸かり、プールで体を動かし、垢すりとマッサージで体はピカピカ、ツルツルになり、一日たっぷり時間を有効に使い、心身ともにリフレッシュできました。あいにく天気は悪かったけど、海を眺めながら海の幸を食べ、そばでビールを飲んでいる人を横目で見ながら、「あーあ、あの一杯がおいしんだよねー」なんて思いつつ、とても有意義な一日を過ごしました。やはり裸の付き合いはいいですね。身も心もさらけだして、より一層仲間と親近感が持てました。これからまた、こんな機会があったらいいなと思いました。



この世のものとは思えない 気持ち良さを体験

私は人前で裸になる事や他人と同じ湯船に入る事が苦手なので、最初は戸惑っていました。でも、仲間達がどんどん入っていくを見て、慌てて追い掛け、恥ずかしさは既に消えていました。人生初の垢すり、オイルマッサージは、この世のものとは思えないほど気持ち良く、行って良かったなと思わせてくれました。昼食も海を見ながらおいしくいただき、午後温泉三昧、炭酸風呂、シルク風呂、肌がスベスベなのが分かりました。これまで裸の付き合いなどした事がなかった私ですが、その意味が分かったような気がします。本当に恥ずかしかったけど、分かち合いが持てました。いろんな意味で仲間との距離が近くなり、心から笑えた日でした。素敵な一日をありがとう。



私にとっては 「幸せ(味わう)プログラム」

私は初めて「太陽の里」という温泉施設へのプログラムに参加しました。るみの家に来てまだ3カ月も経っていませんが、仲間との“裸の付き合い”ができた事は今までにない体験でした。親しみというものを、より身近に感じる事ができたいい機会となった気がします。何とも言い表せない幸せ感で一杯にしてもらえたことに、本当に感謝しています。私みたいなものでも、まだこんな幸せを感じていいの？ 私なんかこの世に存在する意味がない…、価値がない…、と思う事が多い私だけれど、今回生きていてよかった、存在できていて良かったのかも…と思える時間をすごせた一日でした。こういうのを「幸せ」というんだろうな、と思いました。こんなふうに外の行楽施設に行く機会を与えられた事は、私にとって「幸せ(味わう)プログラム」と呼べそうです。心地よい疲れを感じてこの日夜、深い眠りに就けた事は言うまでもありません。



若い仲間の計画した所は 私が行きたい場所だった

ディズニーランドに行った18日は、前日の雨から暑いぐらいの秋晴れとなり、とにかく歩き回らなければならない状況の中で、私の足元は冬のブーツでした。それでも若い仲間達が計画を立ててくれた場所は、私の行きたい所、観たかった所、乗りたかった所ばかりで、すごく楽しかったです。途中、お腹がすいたり、足が痛くなったりしましたが(やっぱり夢の国でもお腹はすくんだな)、ポップコーンもチュロスもおいしく、みんなありがとう！施設長ありがとうございました。



マコ

プールでさんざん泳ぎ垢すりで スツキリの最高のひと時

初めてのスパリゾート「太陽の里」、ひと言で表せば素晴らしい温泉施設でした。心身ともに垢を洗い出し、こんな気持ちは今までにない経験です。私はプールでさんざん泳いで体をすっきりさせた後の垢すりだったので、最高のひと時でした。その間には美味しい食事もいただき、この上ない気分でした。アルコールにしか頭がいかない私が、頭の中が真っ白になりました。今後、この太陽の里の経験を思い出し、飲酒欲求をサヨナラしたいです。本当に有難うございました。



れいこ

これからは「こころ」と 「からだ」のバランスを保つ

私にとってスパリゾート「太陽の家」は2度目の参加でしたが、広々として見晴らしの良い湯船に浸かり、のんびりする事ができました。ふだん食べる事のないお刺身を堪能し、サウナでは良い汗を流し、体がスツキリしました。体を動かすと食欲も湧き、食べる事によってより健康的になれるという事を、今の生活をしながら感じる事ができます。「生きる喜び」ですね。自分は今まで「アルコールの為に」生きてきたような気がします。これからは「こころ」と「からだ」のバランスを保ちながら、自分なりの生き方を大切にしたいと、改めて思いました。



かこ

ぎんちゃんも参加して 車を行き帰り運転してくれた

6人の女性メンバーと東京ディズニーランドに行ってきました。10代の頃に何度か行ったけど、私は「ジェットコースターは乗れない!」と言い続け、買い物を中心でした。今回は仲間の乗る乗り物はすべて一緒に挑戦しました。お陰で声を出し過ぎ、のどが痛いですが(笑)。ルミさんと相乗り、何故か私達2人だけが上にあがらない。ずっと大笑いしながら、頭の中で私達の体重のせいかと思い、疲れるくらい大爆笑でした。実はルミさんのお腹とバッグのせいで乗り物を動かすレバーが動かなくなっていたのです。まだまだ書き足りないくらいいろいろな事があったけど、とても楽しかったです。退寮してもよく遊びに来てくれるぎんちゃんも参加、車を行き帰り運転してくれ、最後まで楽しく過ごせました。次回は仲間全員で楽しみを共有できたら、と思います。最近、施設を飛び出していた私ですが、今年参加できた事を良い思い出にして、来年はどのタイミングでプログラムが組まれても参加できるように、スリッパなしでまずは1年過ごします。



ゆうこ

銚子の市場に行き 試食コーナーでスイッチが入る

今日は本当に幸せな一日でした。お風呂に行く前に、みんなで銚子の市場に行って、試食コーナーを見つけ、スイッチが入りました。美味しかったので、ついいろいろな物を食べ過ぎてしまいました。ちょっと反省しつつも、食べ歩いてしまいました。お風呂に入る時には恥ずかしくてタオルで体を隠していたけれど、途中からは恥ずかしさより仲間が本当の友達みたいに思えてきました。気持ちも楽になって、裸も恥ずかしくなくなっていました。一番楽しかった垢すりもやってもらい、本当に気持ち良かったです。ご飯もすごくおいしかったし、アイスもおいしかったです。夜ごはんは更においしかったです。私は施設に来る前には入院していて、行く場所のなかった私を受け入れてくれた施設長に感謝の気持ちでいっぱいです。



なあな

施設でディズニーに行ける なんて思ってもみなかった

ディズニーか温泉か、私はディズニーを選びました。約2年ぶりのディズニーランド? まさか「るみの家」に来て、ディズニーに行けるなんて思ってもみませんでした。今回はどちらかを選ぶプログラムでしたが、太陽の里に行った仲間達は肌がツルツル、ピカピカになって帰ってきました。ディズニー組はとても楽しかったけど、ヘトヘトで帰ってきました(笑)。今までは彼氏としか行った事がなかったので、少し過去を思い出しました。スプラッシュマウンテンでは写真が撮れるので、みんなで変顔して乗りました(笑)。帰りにラーメン屋さんに寄ったら、まさかのトムさんが居て、笑えました(笑)。来年も楽しみたい、とても良いプログラムでした。



いるか

シンデレラ城のライトアップと 夜景に深い感動

東京ディズニーランドに行ったのは、子供が幼稚園の時だったので何十年かぶり、とても懐かしかったです。あの時には子供が行ける所にしか行けなかったけれど、今回はスペースマウンテンなどかつて体験できなかった乗り物にも乗れました。怖がって叫んでいる仲間もいれば、笑いっぱなしの仲間もいて、とても面白かったです。まるでみんな童心に帰ったようでした。今回私が感動したのは、夜になってから暗くなったのライトアップで、特にシンデレラ城がとても幻想的な美しさでした。昼間とは異なる夜景が楽しめて、少しロマンチックな気持ちにもなりました。とても楽しく、思い出になる一日でした。

受刑者からの手紙

俳句との出会いを手記にして潮騒通信にいつか投稿してみたい

暑さ寒さも彼岸までと申しますが、ようやくしのぎやすい頃と成りました。栗原センター長、如何お過ごしのことでしょうか。お手紙、有難うございました。このほど落手致しました。また、お願い致しておりました潮騒通信「どっこい生きています」も届き、心より感謝致しております。そして俳句の本も毎月滞りなく届いております。センター長の温かい心遣いに感謝感謝の毎日であります。心より御礼申し上げます。「どっこい生きてます」には毎回私の見知った仲間達の顔も写真に掲載されており、とても楽しく、また懐かしく思い読んでおります。

加えて「しおさい俳壇」での皆様方の作句も興味深く、またセンター長の「わが俳句人生の歩み」も毎回楽しみに読ませて頂いております。いつの日にか、私もセンター長のように前刑の時に教えて頂いた俳句との出会いなどを手記にして「どっこい生きてます」に投稿してみよう、とも今は考えております。

さて、暑さの方もだいぶ和らいで夏の間全くとっていい程無かった食欲の方もここに来て少しは良くなり、お粥から普通食に戻り、今は何とか頑張っております。これからの残りの刑期も、今以上にしっかりとした気持ちを持って努める様に努力していこうと思っております。栗原センター長には今後も今以上のご指導の程、宜しくお願い申し上げます。

(長崎県 H・S)

依存症を都合よく言い訳にして甘えてきた事が情けない

先日の手紙でも質問をさせて頂きましたが、新法適用に伴う刑の一部執行猶予判決に付きましては、未だ判らない部分が多く情報も少ないものですから、戸惑うばかりです。以前の報道では、一部執行猶予判決の条件として「依存症の治療」を施設で受ける事が義務付けられ、受け入れの条件を充たしている施設が現時点では、全国では28カ所しか無い為、省庁の対応が迫られるとの事でした。そのような流れの中で、御センターを含め施設側には何らかの説明があったのではないかと考えたものですから、大変失礼致しました。

猶予を受けた6カ月間に対して保護観察を3年間付けたからといって薬物使用の完全な抑止力とは成り得ず、司法もその辺りは分かった上で対応がなされる事かと思えます。ですが、私にとって施設で何年かの治療を受けながら、少しずつ社会復帰のための準備をしていくと言う事は、「人生の再起を懸けて全てを託す」に等しい訳ですから、自分で選択をし、逃げ出したり、言い訳の出来ぬ状況に自らを追い込む事も必要なのではないか、と考えたりもして居ります。

クスリの誘惑に負けてしまった時に、今まで何度も自分に都合良く「薬物依存症なのだから…」と甘えた言い訳をして来た弱い心に対して、自分の事ながら本当に情けないばかりです。私も先月で五十歳となり、残りの人生を考えた時、人生を立て直すのは今回が最後のチャンスだと考え、専門の治療・リハビリ施設での再出発を考える様になりました。そういう訳で弁護士からNダルクへと連絡して貰い、M警察署で面会して頂いたり、病院を調べて貰えるようにと家内に頼んだりしていく中で、御施設の代表である栗原センター長からのお手紙を頂いた次第です。

私は、今から2年6カ月を刑務所で過ごし、その後、本格的に依存症の治療に向き合うつもりであります。今後どのような形になるかは分かりませんが、こうしてご縁が有った事を大切にしていきたいと思っております。今までの私はDARCや病院に対して本格的に考えた事が無いため、分らない事ばかりです。今後も御教示を少なく無いと思いますけれども、何卒宜しくお願い申し上げます。お手紙の中で「薬物を使ってしまうのは意志が弱いからではない」と言って下さっていましたが、自分で注射をしているのも現実としてしっかりと向き合い、誘惑に負けない心の強さを持ち合わせる事が出来るための努力も合わせて重ねていきたいと思っております。

(東京都 F・M)

秋も深まり巷では音楽、スポーツ、読書、食欲…何をするにもいい季節です。同じように堀の中でも運動会など相應しい行事が取り組まれ、頂いた手紙からも受刑者の皆さんの活気ある様子が伝わってきます。人間も自然の一部であることを考えれば、この時期は物事を考えるのに相應しいのかもしれませんが。受刑者の皆さんも理屈抜きで自然に同調しながら、心を落ち着かせて自分と向き合ってほしいなあと思います。(M)

9月の運動会では大声を出して ストレスを発散させた

当地・北海道はあつと言う間に朝・晩は涼しくなり、肌寒い日々になりました。お忙しい中にお手紙を頂き、本当に有難うございました。潮騒通信も楽しく拝読する事ができ、ほんの一瞬ではありますが、日常の苦しい空気を忘れる事が出来ました。皆様方が仲良く海で遊び、幼い頃に戻って居る姿に私も思わず笑みがこぼれました。広報部は大変な仕事です。お身体は大切にしてください。

それにしても回復を目指している人に対して、栗原豊代表をはじめ広報部の方々の気持ちはとても暖かい事を知り、焦らずに前へと一歩一歩進めれば「ヨシッ」と、思っております。9月7日にほんの短い間でしたが、運動会の行事がありました。普段は出せない大声を出してストレスを発散させ、気分最高の時間を過ごしました。私も仲間だと呼んで頂いた事に、喜びを感じました。(北海道 I・Y)

クスリに対してコントロール 不能な状態に陥り自信喪失

今回の事があり、私もやっと自分自身と素直に向き合う事が出来る様に成ったと思います。幾ら自分の理想の未来を思い描いても、懸命に生きてみても、格好良い言葉を並べても、覚醒剤に対しては今の私は本当に無力であり、意地を張って今まで通りの生活を続けてみたところで、何も変わりはない事を実感しています。情けないけれど、今の私にはクスリを止め続ける事が全く出来ません。クスリに対してコントロール不能な状態に陥ってしまい、まったく自信が無いのです。これからの私は、何とか皆さんを見習って死に物狂いで頑張ります。何卒宜しくお願い致します。(埼玉県 S・T)

これからもステップ1から一生懸命にやっっていこうと思う

依存症の回復にとって回復の指標となるプログラムである12のステップに示されているステップ1には「アディクションに対して無力であり、生きていくことがどうにもならなくなったことを認めた」とあります。この回復活動のスタートとなるステップ1について、私なりにここでの事を参考にして考えました。私も以前は、どんなでもない事ばかりをしでかして、アディクションの狂気そのものの存在でした。薬物のためならば、他人の物だって頂戴した事もありました。何にしろ恥ずかしい事ばかりで、薬のためならば何でもしたし、嘘をついて薬の代金を友人、親と、誰それ構わずに巻き上げてしまい、そんな恥ずかしい事ばかりをしていました。今回の件でもそうです。自分自身が少しでも気に入らないと急に怒り出して、普段なら怒りっぽく無い私が社長と口論になり、周囲の人に110番され、捕まって、尿を取られて、そして現在に至って居る次第です。

現在は堀の中ですが一歩外に出れば、社会は自由です。どのようにでも薬物は手に入れる事が出来ます。でも薬物を使用すれば、また元の状態に逆戻りです。今度こそ潮騒の仲間達と一緒に依存症に立ち向かって、「一人で治療を受けるのではないのだ」と思えるので、少しは気持ちが違うのではないかと思います。今は一人考えて、私なりに未来の計画を立てています。この先死ぬまで薬物依存症と戦っていこう!と、思っています。いや、戦ってはいけないのです。戦うことをやめた時に初めて、回復のルールに乗れるのですよね。栗原センター長、スタッフの方々、これからもステップ1から一生懸命にやっっていこうと思っておりますので、どうか宜しくお願い致します。(北海道 S・N)

しおさい、俳壇

10月のお題

鹿

選者 桐本石見

わが俳句人生の歩み・No.33

センター長 栗原 豊

引き続き、私が囚われの身であった時代に、唯一の理解者であり支援者でもあった姪との手紙のやり取りから一。

◇ ◇ ◇

先月は面会に来てくれてありがとう。本当に嬉しかった。今日は文化の日(11月3日)です。今日の祝日は大福餅2個の支給がありました。今舌鼓を打って食べたところです。堀の中にいる私達も社会で暮らす人達と同じように三連休が大好きです。仕事が休める事も大変嬉しいし、何がしかのお菓子が支給されるからです。とにかくみんな甘いものに飢えているのです。今月は23日の勤労感謝の日もあるし…ネ。

それから今月からまた三級に復帰しました。今月は奇数月に当たるので一カ月おきの三級者集会という、お菓子を食べながらのテレビ観賞会があります。これは自腹でジュースとお菓子で400円ぐらいです。講堂に三百人くらいが集まってテレビを見ながら黙々とお菓子を食べるのです。もちろん互いに会話を交わす事は禁止です。このように書き綴っていると、いかにもお菓子を飢えた餓鬼みたいですネ。でも、ここに居る他の人もみんなそんな事を楽しみに、その日その日を過ごしているのです。

そんな中、私の出所もあと約四カ月となりました。やはり一番の楽しみは出所です。出所日は君が迎えに来られるというので、安心してます。出所後の事は出所してから考える事にしています。この中に居ては何を考えても何の答えも出ないし、何も見えてこないのです…よ。今度こそ社会復帰に失敗したくない。それには病気(中毒症)にならないようにすることなのだが、私にはこれが意外と難しいのです。自分がクスリ(覚醒剤)を供給する問屋みたいなものだから…。

さて、君が悩んでいる勤め先の事です、やはり人間関係が難しいのだろうか。この堀の中でも一番難しいのが対人問題です。私もこの中にあっては、どんな嫌な奴でも、十のうち九までが嫌いでも、残りの一つにいいところを見つけ出して何とか付き合うようにしています。今の私には何ひとつとして助けてあげるおとができません。何とか頑張り通してください。

虫の音に心癒さる獄舎(ひとや)かな | 月の名を辞書に引いてる鉄格子 | 生かされて獄舎に眺む望の月

立札に

鹿島の鹿の

由緒かな

ゆたか

その昔、天照大神の使者として天迦久神(あめのかくのかみ)が鹿島の武甕槌命(たけみかづちのみこと)と香取の経津主神(ふつぬしのかみ)の所へ来られ、出雲の国譲りの交渉へ行くよう命じられた。その天迦久神は鹿の神霊であったので鹿島神宮では今も神鹿を飼い、以前は香島と言ったが、この時より鹿島と字を改めた。また称徳帝の七十六年平城京鎮護の為、武甕槌命は白鹿に乗って鹿島を降たれたので、春日大社には今も鹿が飼われている。それらの由緒を偲ぶ句です。

母恋し

小鹿ら暮れの

山に鳴く

あべ

鹿に限らず犬も猫も子供の頃は親を頼る。自然界では少しの油断が命取りになるので親も気遣う。動物園での親子の仕草に心を癒されるが、夕暮れの山に鳴く鹿には特別な哀調を思い、日頃の報道の子供の事件を哀しく思う句です。

恋なれば

乙にすまして

居れぬ鹿

しげ

鹿の恋は秋で故に季語になっていますが、雌を求めて鳴く声は哀調を帯びる。日頃は少しすました姿で公園などに居ますが、この時期は雄は喧嘩をし怪我もする。人の世も似たる思いがしますが、動物の世界は厳しく哀れを思う句です。

特選句

特選句

特選句

今月の秀逸句

さざれ石
鹿は見つむる
何思ふ

ひろ

鹿島神宮の鹿園のすぐ横にさざれ石が展示されている。「石灰質角礫岩」で高さ二メートル弱の小石の石塊、君が代の歌詞で知られ人ならば諸々に思うが、見つめる鹿は何を思うのか。これも現場を見た実感の句です。

鹿ほどに
のんびり生きて
みたきかな

くま

鹿園の鹿達が秋の日和に寝たり餌を食べたり、小鹿とじやれたりする姿は微笑ましい。人の世は有史以来戦争や自然災害、経済競争など苦難が多い。実感の切実の句ですが、動物も自然界では同じ、塙の中の鹿も自由は無い。生きると言うのは多難のこと、故に人には多くの娯楽もあります。

生れ落ち
早やも立ちたる
子鹿かな

めい

動物園などで生れる鹿などは何かと保護されるが、自然界では出来るだけ早く独り立ちしないと外敵の餌食になる。人類もその歴史を経て今がありますが、見ていると健気に思う哀憐の句でもあります。

もののふの
兜に飾る
鹿の角

ひろ

もののふは武士、物部のことで、むかしは鎧兜に身を固めて戦をした。その兜には飾りや武威を表す鹿の角や三日月、矢などを付けた。真田家など名高く、今はアントラーズも名を使う。面白い句です。

月光に
輝きぬたる
鹿の角

ゆき

角伐りのしていない鹿の角は枯れ枝の様に伸び、先端は白く尖る。夕月に照らされる雄鹿の様は何か威厳も思う。秋は恋の季節で老鹿も雌を求めて恋鳴く声は哀れを思い、月光も神々しい景を彷彿する句です。

鹿の角
いずれが立派
比べっこ

みく

牡鹿は生れて一年くらいから角が生え、冬に落ち、春にまた生えるが、歳毎に枝のある立派な角が生える。角が大きなほど大鹿とも言え、リーダーでもあるのだ。哀憐の句です。

佳作

鹿島宮神の使ひの鹿と言ふ	こば	鹿の子のつぶらな瞳愛らしく	れいこ
鹿達も山羊似たりて紙食うか	みく	勤行の畑を荒らす無法鹿	もと
父母と鹿と遊びし幼き日	まこ	夕暮れの長き影曳く子鹿かな	ゆたか
赤信号どこふく風と鹿渡る	ゆうこ	ゆかりんが子鹿に餌をプレゼント	げん
花札の猪鹿蝶や季を知る	しま	鹿島より奈良へ鹿発つ昔かな	おの
この道は鹿の出るやも気をつけて	いるか	角伐りの苦難の季節奈良の鹿	かーと
鹿どうし悪戯喧嘩仕返しぬ	なあな		

どっこい

私も生きてます～我が回復記～「ブーちゃんの回復記」

第1回

義父がウイスキーのコーラ割りを飲ませた事が不幸の始まりに

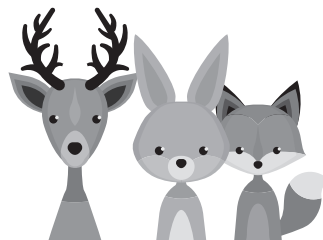
アルコール依存症の「ブー」です。これから僕のアル中人生をできるだけ正直に書いていきます。ご多分に漏れず、僕もアルコールによる蹉跌(さてつ＝躓き、失敗)の連続なので、前回のトンさんよりも長くなるかもしれません。どうか辛抱して読んでください。まだまだ回復途上(一生そうなのかもしれません)なので、この回復ストーリーを書くのは荷が重いというか、時期尚早のように思うのですが、今回与えられたきっかけを大事にし、これに感謝しながら自分の過去を振り返ります。

私は現在、45歳です。東京生まれで、少し複雑な家庭環境で育ちました。失敗続きの要因を生育環境に求めるのはどうかと思いますが、僕がアルコール依存症に嵌った遠因の一つなのかもしれません。僕は4人兄弟の長男ですが、下の弟達とは父親が違います。僕は母子家庭で育ちました。生みの父は都内の観光バスの運転手、母はそのバスガイドでした。実の父は既に結婚しており、母とは不倫関係で僕を身ごもったのです。渋谷区にあった母子寮を経て、僕が4歳の時に港区の都営アパートに移りました。そして母は現在の義父と結婚して弟達を生みました。

僕は中学までは問題なく普通に進みましたが、高校は2年で中退しました。ぶっちゃけて言うと、アルコールを飲み過ぎて学校に通えなくなったのです。これが、僕のアルコールにまつわる具体的な躓きの始まりでした。僕のDNAにはアルコールに対する親和性があるとしても、既に中学2年の時から晩酌というか、寝酒け程度に機会飲酒(何かの機会にときどき飲む程度の飲酒形態・頻度のこと)するようになっていました。きっかけは仕事を終えて帰宅した義父が晩酌の際に、面白半分で「お前も飲んでみるか」とウイスキーを、僕が飲んでいていたコーラに割って入れた事でした。酒に厳しくなった今なら、犯罪として問題になるかもしれませんが、家庭ではよくある風景だと思います。アルコールに寛容な風土とはいえ、子供の人生を狂わせる悲劇に無自覚な典型かもしれません。とにかく僕には、これが不幸の始まりでした。ぼわーんとして、何ともいえないふんわり感に陶醉し、この不思議な感覚が脳にインプットされてしまいました。間もなく僕は父のウイスキーを拝借して、ちょこちょこ飲むようになりました。

(次号に続く)

10月のバースデー

ゆうき
感謝ですもっちー
元気ですあお
五十八歳になりました。もう一花咲かせます。なおと
こどもが生まれる…笑まさお
これからも、残りの人生を酒なしで過ごします。

10月の行事予定

- 10月6日 潮騒映画会
 10月9・15日 秋元病院メッセージ
 10月13日 潮騒俳句会
 10月17・18日 女性ハウス「るみの家」太陽の里&
 東京ディズニーランド小旅行
 10月23日 潮騒家族会
 第26回「鹿嶋まつり」～エイサー演舞等
 10月30日 潮騒アディクションセミナー
 サテライト和太鼓・エイサー

11月の行事予定

- 11月3日 神栖市芸術祭
 11月5・6日 第10回「て～ら祭」
 (鹿嶋市まちづくり市民センター)
 11月10日 潮騒俳句会
 11月13日 ひなたぼっこエイサー発表
 11月13・19日 秋元病院メッセージ エイサー発表
 11月20日 はまなす公民館祭り
 11月27日 潮騒ジョブトレーニングセンター
 11周年フォーラム(鹿嶋勤労文化会館)

献金・献品を頂いた方(10月15日現在)

・K&G 企画 様 ・白砂 文雄 様 ・幸友企画 様

今月も献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。
 本当にありがとうございました。

おかげさまで潮騒 JTC は、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。今後ともご支援
 くださいますよう、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

※その他匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。

ありがとうございました。

※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させていただいて
 おります。どうぞご理解のほどをお願いします。

編集後記という名の独り言

このところ40年以上も前に、そらんじられるまでに何度も読み返した吉本隆明の詩のいくつか、ふとよみがえる場面が増えた。例えば「涙が涸れる」という作品。「けふから ぼくらは泣かない/きのふまでのように もう世界はうつしくもなくなったから/そして針のやうなことをあつめて/悲惨な出来ごとを生活の中からみつけつき刺す/ぼくらの生活があるかぎり一本の針を引出しからつかみだすように/心の底からひとつの倫理を/つまり役立ちうる武器をつかみだす/しめっぽい貧民街の朽ちかかった軒端を/ひとりであるいは少女と/とほり過ぎるとき/ぼくらは残酷に/ぼくらの武器をかくしてゐる/胸のあひだからは 涙のかはりに/バラ色の私鉄の切符が/くちやくちやになってあらわれ/ぼくらはぼくらに または少女に/それを視せて とほくまで/ゆくんだと告げるのである/とほくまでゆくんだ ぼくらの好きな人々よ/嫉みと嫉みとをからみ合はせても/窮迫したぼくらの生活からは 名高い/恋の物語はうまれない/ぼくらはきみによって/きみはぼくらによって ただ/屈辱を組織できるだけで/それをしなければならぬ」既に鬼籍に入っているが、吉本は売れっ子作家、吉本ばななの父親である。頭でっかちの、肥大化した自意識を持って余っていた学生時代に、吉本の詩は寄り添い自分の思いを代弁してくれ、カタルシスを覚えたものだった…。心を痛打した妻の死から3カ月がたったが、依然として立ち直れない自分がある。夕暮れに独り仕事場で時間をやり過ごしている時などには、涙が止まることがある。「俺の心はこんなにも弱かったのか」と情けなくなるが、ダルクや潮騒流の生き方からすれば「良く泣く赤ちゃんはお母さんからたくさん、おっぱいがもらえる」となる。妻の死後、近親の死が立て続けに我が身を襲い、無常観に囚われて「いい加減に生きよう」の精神を忘れがちになっている。もうすぐ潮騒フォーラムだ、みんなのパフォーマンスに刺激を受け、心に余裕を取り戻そうと思う。(市)

潮騒通信 どっこい生きてます! 2016年10号

Contents

- P② 回復への熱い思いが未知の分野への挑戦に
 P③ 第1回 イチさんの棚卸「日記風の回想録」
 P④ 収穫期を迎えた今年の潮騒農業
 P⑥ ユタカ VS トム 対談 第10回
 「ハイパーパワーに身を委ねる生き方ができている」
 P⑧ 女性ハウス「るみの家」
 ディズニー&太陽の里で気分をリフレッシュ
 P⑩ 受刑者からの手紙
 P⑫ しおさい俳壇「鹿」
 P⑭ どっこい私も生きてます「プーちゃんの回復記」第1回

■ 編集・発行:

特定非営利活動法人

潮騒ジョブトレーニングセンター(本部)

〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 34号

〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210-10

TEL:0299-77-9099 FAX:0299-77-9091

潮騒リカバリーホーム(中施設)

〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 56号

〒311-2213 茨城県鹿嶋市中 2773-16

TEL:0299-69-9099 FAX:0299-69-9098

潮騒スリークオーターハウス銚田

〒311-2113 茨城県銚田市上幡木 1113-39

E-メール k.s-darc@orange.plala.or.jp

ホームページ <http://shiosaidarc.com/>



